

公表: 令和4年2月26日

事業所名 : こども発達支援センターもも

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		今後も継続していく
	②	職員の配置数は適切である	100%	0%		今後も継続していく
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%	・リフォーム後、トイレに20cmほどの段差ができ、個別に配慮が必要。	今年度大幅な内装改修を行いトイレの数を増やしたもののそのために段差が生じた
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		今後も継続していく
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83%	17%		今後も継続していく
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	・年に一度行っている。昨年に引き続いて行えることは努力しているが、新体制となり今年の分を踏まえて改善していきたい。	今後も継続していく
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		今後も継続していく
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	83%	17%		今後も継続していく
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・回数は少なかったが、リモートでの研修に参加。 ・定期的に行われているため、参加しやすい。	今後も継続していく
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	83%	17%	・まだ未熟で、客観的に分析できていたか不安なところが多かった。	今後も継続していく
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83%	17%	・わからない。 ・生活習慣チェック表を年2回チェックしている。	K式発達検査やアセスメントシートの活用など、今後も継続していく

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%		今後も継続していく
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	・声かけ支援や動作支援など、日々工夫しながら行っている。	今後も継続していく
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・担当日を決めているため、その日に向け効果的な活動を十分に調べられる。	今後も継続していく
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	・担当日を決めているため、その日に向け効果的な活動を十分に調べられる。 ・静動の活動を入れつつ、活動に応じて段階が踏めるように心掛けている。	今後も継続していく
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・担当日を決めているため、その日に向け効果的な活動を十分に調べられる。	今後も継続していく
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・前日や朝の申し送り時に何をするのか話し合い行うことができている。	今後も継続していく
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%	・必ず、毎日反省、打ち合わせを行い、業務改善を行っている。	今後も継続していく
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・記録を怠らず行っているため、個人の成長を感じながら、他職員の意見も取り入れられる。	今後も継続していく
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	83%	17%		今後も継続していく
		㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	83%	0%	・保健所回りは今年実施していない。	コロナの状況を見極めつつ検討していく
㉓		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	50%	17%	・医療的ケア児の受け入れをしていない。	対象児がいない

関係機関や保護者との連携	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	50%	17%	・医療的ケア児の受け入れをしていない。	対象児がない
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・同法人内での情報共有は行っている。	今後も継続していく
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	67%	33%		小学校に就学する子どもが少ないが今後情報共有について検討していく
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%		施設に来園しての状況はコロナが落ち着いたら再開することを検討している
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	・同法人内のこども園と合同行事を行っている。	今後も継続していく
	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	33%	67%		参加する機会がない
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・連絡帳でお伝えしている。 ・個人の見解・経験・知識等からの違いはあるが、話し合いが設けられているため、大まかな理解は同じになっている。	今後も継続していく
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	83%	17%	・お知らせは行っている。 ・ももの保護者に対してはペアレントプログラムの呼びかけはしていない。学習会も行っていない。	ペアレントプログラムの参加を今後呼びかけていく
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%		今後も継続していく
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		今後も継続していく
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%	・定期的に行ってはならず、保護者から相談があればその都度話をしている。	今後も継続していく

	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17%	83%	・実施していない。	次年度は保護者同士の学びの場をコロナの状況を見定めつつ実施することを検討している
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	83%	17%	・日程を決め、面談をするなどの対応は施設長が行っており、自身はしていない。	今後も継続していく
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		今後も継続していく
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		今後も継続していく
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		今後も継続していく
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	83%	17%	・コロナウイルスの影響で招待できていない。	状況を見極めつつ検討していく
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83%	17%	・周知できていない。	保護者に向けては周知できていないので検討する
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・月1回避難訓練を行っている。	今後も継続していく
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	100%	0%		今後も継続していく
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		今後も継続していく
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		今後も継続していく
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	・研修等に行けていない。	該当する職員向けに年度末までに実施予定
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%		今年度新たに書面化した